

「天津」は農産・地下資源の宝庫——*

北京と天津は、距離的にウソと近い。が、それでも一時間五分くらい汽車にゆられて、二十日の夕刻天津に着いた。果てしなく続く春の大津波を満喫しながら……

天津は、人口が約四百万ちょっと、バイン川下流にある都市で、農産資源から石炭や石油、ボーキサイトなどの地下資源が豊富なことと聞いた。近年では、これら資源を基調に重化学工業部門の建設が著しく進んでおり、いわば総合工業都市としての性格を備えている。ここでは、工業サイドから大慶油田とともに中国の石油需用をまか

中国を体験せよ②

志田 保
中華人民共和国を
「友好訪問」して



大港油田で労働者から説明を受ける一行

なっているという「大港油田」のボーリング現場を見せてもらった。この産油地は、市街地からおよそ百キロ近くもの郊外にあり、十数年前に新しく発見された中国自慢の地下資源の宝庫である。ところで現地帯は、石油景気や活気にあいたかつての石油のまち（新津）の様相とはうらはらに、ヤグラの林立などはまったくなく、静かに大きな泥土地が広がっているだけだった。地下資源の宝庫とのふれ込みから、ちよっと拍子抜けの感であったが、しかしここ一帯の石油の埋蔵量は無尽蔵で、掘きく機械類もすべてが国産需用と聞いて、中国のイメージを一層強くし

た。広い泥土地にヤグラは一つで、井戸も一か所ずつ、簡素とも思える油田地帯なのである。というのも、採掘を終るとヤグラを持って他へ移動し、そこでまた掘りはじめという繰り返し、だからヤグラが林立しない、もうなすけよう。でも、生産量やその消費量などどのがのくらいたった、ついに聞かせてもらえなかった。油田地帯には「天然ガス」がつきものである。中国では石油の掘きくで湧出する天然ガスを使って土を焼く、砂や砂利、セメント類まで生産していたのには驚いた。參觀した「人口砂利製造工場」には、七十四名の若い労働者たちが、わき目もふらずにもくもくと働いていた。

人口砂利そのものは、一見やわらかそうだったが、それがトンカチなどでたたいたところでは、ちょっとやそつでは割れない固さがあった。石油の掘きく作業、という建設資材の人工生産といひ、自力更生に打込む中国のナマの国民性ともうまさをのぞきみた思いがした。

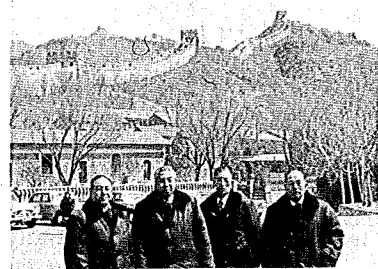
「国貿促」など表慶訪問

翌二十一日、一行は北京に乗り、国貿促（中国国際貿易促進委員会）と午後から中日友好協会を表慶訪問した。

国貿促は、日本では通産省に似た国営の団体に当たるようである。そこでは副主任の王文林氏と、また中日友好協会では、再度秘書長の孫平化氏とそれぞれ歓談することができた。両氏は、中国での国づくりから国民教育、そして技術レベルなど、多方面にわたって話はずんだ。

万里の長城などの城壁遺跡を參觀——*

万里の長城はあまりにも有名なが、その名の通り大城壁が一時二千四百キロも続き、これができるまでには、二百年五十余年の歳月を費やしたという。当時の諸国が、辺境を防ぐため、その一部を築き、後にたつて秦の始皇帝が完成させたものだが、現存しているこの城は、明が蒙古人に備えて、この場所に築いたものとの説明を聞いた。城つくりには二百五十余年、何とも気の長いというが、実直な中国人かたぎを思わずにいら



2,000年の歴史をきざむ万里の長城を背にして

「一万席もあったマンモス議事堂」*
赤いじゅうたんが敷きつめられた「人民大会堂」は、日本の国会議事堂である。一階は議場、二・三階が傍聴席になっている。椅子席が何と一万席、議場だけでも五千席あるというマンモス議事堂だった。

參觀を終えた一行は、人民代表大會常任委員会副委員長の李素文女士と会話し、みんな記念写真におさまった。「地下ごう」は縦横に郊外までも*
二十四日、訪中してから六日目である。飲料水や飲食物に気を付けていたせいか、すっかり中国での生活にもなれからでは快調だ。やや遅めの朝食だったが、市内にある地下ごうの見学に出かけた。

外敵の侵入などに備えて地下ごうの建設が進められていたが、それがどんな規模でどのようなになっているのかについて、私自身興味があった。一行が案内されたところは市街地真中のデパートの中、何やらスイッチャリきものを売ると、一メートル四方くら

いの穴が足元にポツカリとあいた。どのくらい階段を下りたのだろうか、周囲はレンガで囲まれ、高さ幅とも二メートルくらいはある地下ごうがあった。通路は縦横に、それも長く郊外まで続き、その両側のいたる所にアキ屋敷が設けられてあつて、食堂にもなれば物置きにもなり、照明があかあかと照らしていた。まだ建設途中とはいえ、十分開くうちに、何百万人も市民が、いたる所に設けられた入口から地下ごうへの避難が可能と聞いて、驚いた。参考までにこの大規模な地下ごうは、モーターによる酸素の入替え設備はもとより食糧、飲料水の貯蔵から自家発電装置も万全のことだった。

歴史を大切に受継いでいた古都——西安

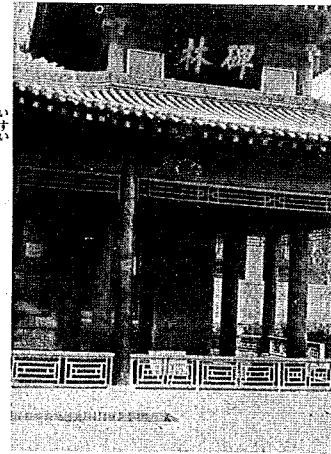
二十四日の午後、こんどは飛行機で三番目の訪問都市、西安へ向った。西安は人口約百万五千人、黄

「緑」が印象的だった北京の公園



人民大会堂ロビーにて

河の支流、渭水盆地の中心地で、紡績・製粉の大工場や発電所もあるが、古くは長安といわれた首都、古都である。漢・隋・唐時代の史跡は、今でもそのまま保存されており、日本の奈良市とは姉妹都市を結んでいる。



石碑などが保存されている「碑林」博物館

「碑林」という博物館には唐・宋時代以来の石碑や法帖の石刻が保存されている。以前にこの地に、数知れぬ貴重な土器類などが発掘されたため、広大な道跡地帯に建物物を築き、博物館として保存、研究しているという。顔真卿・歐陽修らの書いた石碑や、有名な書家の法帖の石刻などは五百余点も収められていた。西安には、由緒ある寺院や秦の始皇帝陵などがある。ここ一帯は、古くから温度・湿度とも高い温泉の湧出があり、楊貴妃や蔣介石などのかくれたエピソードがふんだんに伝

お買物、ご用命は市内で

MEN'S LADY'S
フォーマルウェア
クールなサマー6ツ釦ダブル 50,000円
オールシーズン6ツ釦ダブル 46,000円から 52,000円
ヤングアダルト6ツ釦ダブル 52,000円
ヤングスリーピース 43,000円
男の服 うちだ ファッション Mimi
本町2 (4) 0648 本町2 (4) 0658

エアコンで夏を快適に
いまなら全品種揃っています
新町2丁目
田村電機商会
TEL 2-0653

お買物、ご用命は市内で

おぼえる電話=プッシュホン
えっポイント!! 短く・短く・ピポッパ
心をつなぐ 新津電報電話局